

公益財団法人

かめのり財団

アニュアルレポート

2023年度 年次報告書

2023

 かめのり財団
Kamenori



多文化共生の理念とともに

私たちは今、冷戦終結以来となる熱き戦争の時代の真ただ中にいます。その現実を報道で見聞きするたびに、第二次大戦後作り上げてきた平和維持のための国際秩序がこれほど脆弱なものだったのか、と無力感にさいなまれもします。私たちが目指してきた多文化共生社会の理念が、これほど動揺している時代は冷戦終結後かつてなかったかもしれません。一言で言えば分断の時代が復活しつつあるということです。

しかし、同時に、多数の国や国際組織の中で、ロシアやイスラエルの残虐行為を糾弾する自主的な運動が様々な形でおこり、国際的な世論や政治に大きな影響を与え始めています。

そのような運動の下支えになっているのが、やはり、多文化共生の理念であります。

中長期的の視点で見た時に、若い方々に国際交流の機会のチャンスをさしあげること、これによって多文化共生の理念が自らの中に息づくように努力することが、戦争を平和に変え、平和を維持していくためのもっとも基本の作業であることはいうまでもありません。

かめのり財団は、18年間そのために国際的な視野に立つ若いリーダーの育成に取り組んできました。これからもより強力に取り組みを進めていきたいと思えます。これをご支援いただいている皆さんに、改めて感謝申し上げます。そして、若い皆さんが、分断が復活しつつある危険な時代に、力を合わせて国際的な視野に立つ活躍されますように、強く期待いたします。

かめのり財団 理事長
木村 晋介

公益財団法人 かめのり財団は
日本とアジア・オセアニアの
若い世代の交流を通じて
未来にわたって各国との
友好関係と相互理解を
促進するとともに
その架け橋となる
グローバル・リーダーの
育成を目的に事業を行っています

今号の内容

かめのり財団 活動の方針とその実践	3
奨学事業	4
大学院留学奨学金	
青少年交流事業	5
かめのりスクール 2023	
かめのりカレッジ 2023	
高校生カンボジアオンラインスタディツアー	
かめのり未来をつくるリーダーシッププロジェクト (KAFL)	
日ASEAN ユース・フォーラム	
Take Actions for Social Change (TASC) 2023	
助成事業	8
多文化共生地域ネットワーク支援事業	
多文化共生分野で活躍したい日本語パートナーズ	
経験者のためのステップアップ・ワークショップ	
オンライン連続セミナー 2023	
海外日本語教育サポート事業	10
報告書「にほんご人フォーラム 10年のあゆみ」	
ベトナム日本語教育への支援	
ベトナム初中等日本語教育教科書等作成・整備事業	
国際シンポジウム「世界をつなぐ日本語」	
にほんご人フォーラム関連事業	
基盤支援事業	12
かめのりフォーラム 2024	
かめのりセッション 2024	
第17回かめのり賞	
講演会	
財務のあらまし / 評議員・役員一覧	15
お知らせ / 今後の予定	16

かめのり財団 活動の方針とその実践

ミッション：基本方針

公益財団法人かめのり財団の活動の目的は、日本とアジア・オセアニア地域の若い世代の交流と、その懸け橋となる人材育成を通じて、未来にわたって各国との友好関係と相互理解を推進することにあります。

この目的を達成するため、柱となる3つの事業「高校生交換留学および大学院アジア留学生への奨学事業」「青少年の交流および言語教育支援を助成する国際交流事業」「それらの推進のための、顕彰、講演・シンポジウム等の基盤支援事業」を実施してきました。

ビジョン：10年の目標

財団設立10周年を迎えた2016年度には、その後の10年間の活動方針として、次の3つの目標を掲げ、以後この方針のもと様々な活動を続けています。

1. 前向きにチャレンジし続ける「かめのりスピリット」をもつ若い人々の育成
2. 異なる文化の人々と信頼関係を築き協働できる若い人々の育成
3. ゼロから考え創る力を持つ若い人々の育成

また、若い世代が自ら育つ環境づくりを目指して、奨学事業や国際交流事業において、「アジア・オセアニア地域、特に中国・韓国・東南アジアを理解する日本の青少年の育成」と「お互いの理念や目的を尊重し、協働できるパートナーとの事業展開」を重視しながら事業を進めてきました。

かめのり財団が掲げるこのような目的と目標のもと、主に国際交流事業において、中高生を対象としたアジアの国々への派遣・交流プログラムや、海外日本語教育支援を2017年度以降継続的に行いました。しかし、2020年に世界を襲ったコロナ禍により、全ての交流事業が中断。以後、休止状態が続く事業もありますが、オンラインに形を変えて継続したり、新たなプログラムを立ち上げたことで、困難な局面においても、若い人々の交流と育成のための活動を途切れることなく続けてきました。2023年度に入るとコロナ禍による活動の制限が大幅に減り、国内での国際交流プログラムや講演会を再開することができた他、海外派遣を含む大学生対象の交流事業を行いました。

この年次報告書では、かめのり財団が2023年度に実施した活動の全容をご覧ください。



奨学事業 2023 年度概要

日本の大学院で研究を行う、アジアからの留学生を支援しています。毎月20万円の奨学金を支給する他、夏休みには研修交流会を行い、研究発表や奨学生同士の交流の場、日本の地域や文化を知るための機会を提供しています。

2024年4月には3名の奨学生を新たに迎え、1名の奨学生が修了しました。これまでにかめのり財団が採用し支援した留学生は、11の国や地域出身の52名となりました。

青少年交流事業 2023 年度実施概要

2023年度は、日本国内での交流プログラムの充実を図り、4年振りにかめのりスクールを再開した他、かめのりカレッジを行いました。また、東南アジアと日本での研修を含む日ASEANユース・フォーラムを国際交流基金とASEAN大学ネットワークとの共催で実施しました。

大学院留学奨学金



2024 年度新奨学生



イワヤン ユウキ

I Wayan Yuuki (インドネシア)

立命館大学大学院 スポーツ健康科学研究科
身体運動科学領域専攻 博士前期
奨学金受給期間：2024年4月～2026年3月
研究テーマ：インドネシアが誇る天然素材「ココナッツオイル」と運動の併用による認知機能亢進効果とその理論の基礎形成

母国のスポーツと健康課題に貢献し、日本とインドネシア間の共同研究や交流を促進することが私の人生最大の目標です。この夢を追求する過程で、かめのり財団との出会いは、私の目標達成に向けて大きな助けとなりました。自分らしさを大切にしながら、目標に向かって精進します。



甄卓榮

Yun Cheuk Wing ケンタクエイ(香港)

筑波大学大学院
人間総合科学術院教育学位プログラム 博士後期
奨学金受給期間：2024年4月～2027年3月
研究テーマ：学校教育における「国家」の正当化メカニズムに関する実証的研究

人類が直面する課題の解決には、国家の問い直しや国家の枠を超える発想力が求められています。それを育む場である学校教育を対象に、日本で研究を開始しました。かめのり奨学生の一員として、多彩な分野で活躍する仲間たちと交流し、自分ならではの研究を拓いていきます。



グエン ティ リン

Nguyen Thi Linh (ベトナム)

大阪大学大学院 人文学研究科
言語文化学専攻 博士後期
奨学金受給期間：2024年4月～2027年3月
研究テーマ：日本語指導を必要とするベトナム人児童生徒の日本の学校での体験
—ナラティブインクワイアリーを用いて—

博士課程在籍期間中、かめのり奨学生として自分自身がベトナム人の子供たちと他の国の子供たちの架け橋となるため全力を尽くしたいと考えています。自身の研究を通じて、現在の日本社会における文化の相違から生じる社会問題を解決するための、新しい知識を創造したいと思います。

かめのりスクール 2023

日本とアジアの若い世代が交流し、理解を深め合い、視野を広げるプログラム「かめのりスクール2023」を4年ぶりに再開し、2023年6月25日、7月9日、7月23日の計3回のオンラインセッションと、8月1日～8月4日の3泊4日のL stay & grow晴海でのメインプログラムを実施しました。

今回は「わたしのまちはサステイナブル？」をテーマに、日本語を学ぶ東南アジア5カ国(インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア)の高校生15人と日本の中高生15人が一緒に課題に取り組み、フィールドワークやグループ発表を通じて友好と相互理解を深めました。フィールドワークでは、「そなエリア」での地震体験や、視覚障がい者の案内で暗闇を歩く「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」での体験から、持続可能性に関する

新たな視点を得ることができました。

最終日の発表では、自分たちのまちが持続可能となるために何ができるかを考え、行動計画を伝える短い動画を作成し発表しました。言葉や考え方の違いに苦労しながらも、どうすれば相手に伝わるか工夫し、協力してひとつのことを達成した経験は、生徒たちを大きく成長させてくれました。



かめのりカレッジ 2023

将来グローバルでの活躍を目指す大学生を対象に、必要とされるスキルとマインドセットの醸成を目的とし、2019年より「かめのりカレッジ」を実施しています。2023年度は、オンライン研修および3泊4日の合宿研修を実施しました。



今回のテーマは「Change Yourself」。参加者は日本在住の大学生16名と、東南アジアの大学生(インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシアから各1名)で、7月からはオンライン英語レッスンと共に、研修最終日に発表するチームプロジェクトを開始。2023年8月29日～9月1日に行ったL stay & grow晴海での合宿研修では、大学教員やビジネスの世界で活躍する講師による双方向型のセッションと並行して、チームの発表準備が進行しました。最終日は「Asia Region Meeting」をテーマに、学んだ知識やチームワークを發揮しプレゼンテーションが行われ、講師による講評と表彰がありました。

期間中に大きく変化した実感があつた人、思うように変われず悔しい思いをした人など様々でしたが、ここでの経験がプログラム後も活かされることを期待しています。

2023 年度修了生



郭凱琳

Kok Hoi Lam カク カイリン (マカオ)

関西学院大学大学院 経営戦略研究科
国際経営コース 博士前期課程 終了
奨学金受給期間：2022年4月～2024年3月

私の大学院生活は、かめのり財団の支援がなければ考えられないものでした。ある研究プロジェクトが行き詰まり、自信を失いかげ、思考が停滞し、迷いと焦燥感に囚われた私にとって、かめのり財団の面談はまさに救いの手でした。そこでの励ましは、再び前進する勇気を与えてくれました。夏の研修交流会への参加もまた成長の機会でした。地域や文化の異なる人々と触れ合い、新たな視点を得たことは人生の宝物です。生活面でもかめのり財団は私を支えてくれました。学業や研究のプレッシャーに潰されそうだった時、優しい言葉や助言に心を癒され、前を向くことができました。

社会人としての新たな挑戦が待ち受けていますが、かめのりファミリーの一員としての絆を大切に、前進していきます。

青少年交流事業

青少年交流事業

高校生カンボジアオンラインスタディツアー

2014年より(公社)日本ユネスコ協会連盟との共催で「高校生カンボジアスタディツアー」を行っています。日本の高校生がカンボジアを訪れ、国際協力の現場や世界遺産の視察、現地に暮らす人々との交流を通じてカンボジアが抱える課題を学び、個人としてどのような貢献ができるかや持続可能な解決方法を考える力をつけることを目的としています。2020年度からはオンラインの形で継続し、2023年度は8月19日・20日に日本の高校3校より18名の高校生が参加しました。

1日目は、最初に「互いを知る」をテーマにワークショップを行い、高校生が自分の学校を紹介し、お互いに質問をして交流を行いました。続く寺子屋(全世代の地域住民が読み書きや職業訓練等を学ぶ場)訪問では、子どもたちがカンボジアの伝統的なココナッツダンスを披露し、日本からの質問に答えてくれました。小学生クラスの子どもの自宅訪問では、食料や勉強道具が不足していたり、壁のない小屋でトイレがなかったりと、日本とは異なる暮らしを知りました。

2日目は、日本ユネスコ協会連盟のカンボジア事務所の所長や学校の先生、元学習者と、「私の好きな時間」「理想の学校」といったテーマで意見交換を行いました。参加者からは笑顔が絶えず、日本人高校生のカンボジアをもっと知りたいという思いが募る中、ツアーは終了しました。2024年度はついに現地ツアーが再開します。



かめのり未来をつくるリーダーシッププロジェクト(KAFL)

(特非)青少年育成支援フォーラムと共同で、「全員発揮型のリーダーシップ」について理解を深め、必要なスキルを身につけることを目指すプログラムを2022年より実施しています。

高校生から大学3年生を対象としたこの研修プログラムでは、一人一人が強みを生かしたリーダーシップの能力を身につけるため、事前学習として約1カ月の間にオンライン研修と動画による事前学習でリーダーシップや課題解決の手法について学んだ後、2023年12月9日・10日に1泊2日の合宿研修を行いました。

高校生9名、大学生14名の計23名が参加した合宿では、チームに分かれて設定したテーマ(社会課題)に沿って、事前学習で学んだ知識や能力を駆使して社会課題の解決に向けた計画作

りに取り組みました。テーマには食品ロスの削減、情報の取捨選択、格差解消、LGBTQ、若者の政治参加などが選ばれました。ここでの目的は、チームの目標達成の過程において、全員発揮型のリーダーシップを発揮し実践することです。参加者それぞれが、主体的にリーダーであるという自覚をもって課題に取り組んだことが、研修会の何よりの成果となりました。

日ASEANユース・フォーラム
Take Actions for Social Change (TASC) 2023

(独)国際交流基金とASEAN大学ネットワークとの共催で、ASEAN各国と日本の若者間の相互理解を深めるための交流事業「日ASEANユース・フォーラム Take Actions for Social Change (TASC) 2023」を2023年7月から11月にかけて実施しました。

これは日本ASEAN友好協力50周年の記念事業で、ASEAN大学ネットワークに加盟するASEANと日本の大学から選ばれた学生が、『2050年に向けて、より良い世界を共に創る』という展望の実現に向け活動する交流プログラムです。日本から6名、ASEANから24名が参加し、「高齢化社会」「多様性」「環境・防災教育」のテーマ別にタイ、フィリピン、インドネシア、日本での研修とフィールドワークを経て、課題解決のための行動計画を発表しました。参加した日本人学生の声をご紹介します。



扱いを教わり、全員で動きを合わせ大きな力を生み出しました。体験後チーム内で「運動が得意でない我々はチーム内のハンディキャップで、その意味で障がいがあると言えるのでは」と話し、この気づきから「多様性自体はどこにでも存在し、特に問題ではない」というメッセージを発表で伝えたいと考えました。

日本では不登校児のためのNPO、パラリンピック開会式でパフォーマンスをした団体を訪ね、自身の努力と周囲の支えにより社会貢献を実現する方の姿を垣間見ました。障がいの有無に関わらず、誰もが周囲の支え無しに生きることはできない。そう胸に刻み、様々な背景を持つ参加者と過ごし、頼り頼られながら発表を乗り越えた経験はかけがえのないものでした。

「環境・防災教育」チーム 参加学生 M.K.さん

インドネシア研修では、火山の噴火やごみ問題などの問題解決に取り組む方との対話から環境と防災について学び、帰国後は定期的にオンラインでアクションプランを練りました。当初は他の参加者の高い能力に圧倒されましたが、積極的に関わることで、互いに学び合いながら協働することができました。

日本では、母国にいながら全く異なるバックグラウンドを持つ人たちの学びが非常に刺激かつ新鮮で、訪問先では机上では学べない知見を得ることができました。環境や防災のために活動する人が日本各地に大勢いることも新たな発見でした。

何より学びだったのは、このプログラムで出会った大勢の人たちとの関わりです。このつながりを大切に交流を続けたいと思います。



「高齢化社会」チーム 参加学生 S.T.さん

タイと日本での研修や視察を通して、高齢化社会の現状や課題、解決に向けた取り組みを学びました。タイでは高齢者が生き生きと生活できるコミュニティを提供する企業や、包括的に高齢者を支援する地域の実践について学び、日本では、引退後の社会参画を目指し地域創生のNPOを立ち上げた方から話を聞きました。この学びから、高齢者に居場所を与えること、引退後も社会で役割を持つことに着目し、「世代間交流を目的としたメンターシッププログラム」のアクションプランを発表しました。

ASEANの学生との関わりで印象に残ったのは、自分で行動を起こし、何かを変える意識が非常に強いことでした。大学や国の枠を飛び出し、文化や価値観、背景の違う人たちと過ごした日々は非常に刺激的で、人生の糧となる経験になりました。

「多様性」チーム 参加学生 H.T.さん

「障がいのある人などどのように協働していくか」をメインテーマに、研修からプレゼンまで取り組みました。フィリピン・セブ島でのパラドラゴンボート体験では、義足の選手からオールの

助成事業

助成事業

2023年度実施概要

日本とアジア・オセアニア地域の青少年交流や人材育成に関わる活動や、日本語やアジアの言語教育に関わる活動に対して、2006年から2015年の間合計77のプログラムに資金助成を行いました。その後休止期間を経て、2020年から2022年には、パンデミックにより世界の状況が一変し、緊急支援プロジェクト助成を実施。コロナ禍からの回復が顕著となった2023年度は、国内の多文化共生を支援する研修や事業助成、オンラインセミナーを実施しました。

オンライン連続セミナー2023

2021年より、国際交流や多文化共生の現況と今後の課題に焦点をあてたオンライン連続セミナーを実施しています。2023年度は、4月・5月と12月に実施しました。

と社会福祉協議会が協働で実践した大阪府豊中市での支援例が語られました。

最終回では企画者の川北氏が、人口減少を見据え、外国人が求める賃金水準やキャリア設計、子育て環境、教育へのアクセスを実現することが必要と語りました。

12月は「多文化共生の転換期」をテーマに、多文化共生を取り巻く最新情報の提供と現状の検討が行われました。第1回では、外国人労働者受入を巡る政府の動向を示した上で、地域における多文化共生分野の担い手育成の必要性や、多文化共生施策が進まない小規模自治体の状況を紹介しました。

第2回は、外国人が日本に住む上で不可欠な情報の提供や、人権問題解消への取り組み、相談窓口での実践を報告。また、国による日本語教育環境の整備や、新たな国家資格「登録日本語教員」の解説がありました。第3回は、国の政策として外国人相談や支援の仕組みが増える中、民間団体や市民の側からの取り組みとして、地域の中で必要な支援を提供する仕組みづくりや実践を紹介しました。

最終回では、多文化共生事業へ助成を行う団体により、地域による差異や課題が複雑化した現状、外国ルーツの子どもや若者への支援の不足など、さらなる課題や支援の必要性が示されました。

多文化共生地域ネットワーク支援事業

地域の担い手に必要な多文化共生分野の知識と、組織や事業のマネジメントに必要な能力を学ぶ研修の場として、「かめのり多文化共生塾2023」を2023年10月～2024年1月に愛知、兵庫、岩手で実施しました。計25団体・個人の30名が参加したこの塾では、多文化共生に向けた施策動向や実践例を学び、各自が取り組む課題について調査や企画提案、参加者間での相互評価を行い、11の団体・個人が次年度の事業助成対象に選ばれました。

また前年度採用された11の団体・個人が、約1年に渡る事業を実施しました。



かめのり多文化共生塾 2023

開催地 協力団体	東海・北陸地区 (愛知) 犬山国際交流協会	近畿地区 (兵庫) (特) 場とつながりの研究センター	北海道・北陸地区 (岩手) 奥州市国際交流協会
第1日 解説講義	2023年10月31日 (火)	2023年11月7日 (火)	2023年11月14日 (火)
第2日 解説講義	2023年11月1日 (水)	2023年11月8日 (水)	2023年11月15日 (水)
第3日 課題報告・事業計画書作成	2024年1月17日 (水)	2024年1月30日 (火)	2024年1月23日 (火)
第4日 事業計画発表	2024年1月18日 (木)	2024年1月31日 (水)	2024年1月24日 (水)
ご参加者数	12人 (11団体)	9人 (8団体)	9人 (6団体)

多文化共生の担い手ネットワーク会議 3地区すべての受講生が参加し、ネットワーク形成を目的とした会議。この日発表され採択された事業には、2024年度に助成。

事業助成 「多文化共生の担い手ネットワーク会議」で採択された事業への助成。1事業あたり上限50万円、11団体・個人に助成。

多文化共生分野で活躍したい日本語パートナーズ経験者のためのステップアップ・ワークショップ

(独)国際交流基金(JF)との共催で、JFの日本語パートナーズ(NP)経験者を対象に、日本国内の多文化共生をテーマにしたワークショップを、2024年1月20日・21日にJF日本語国際センターで、3月16日・17日にJF関西国際センターで開催しました。(一財)ダイバーシティ研究所の田村太郎氏による多文化共生の現状と課題についての講義の他、NP経験者の活動紹介、今後の計画を作成するグループワークを行いました。



2023年4月・5月 「日本における外国人と福祉のこれまでとこれから」

第1回 2023年4月13日 (木)
多文化共生時代の地域福祉・福祉制度の現状と課題

矢野 花織氏 (公財)北九州国際交流協会、社会福祉士
長谷部 治氏 (社福)神戸市社会福祉協議会 地域支援部担当課長
村松 清玄氏 (公社)シャンティ国際ボランティア会 国内事業担当

第2回 2023年4月19日 (水)
多文化共生時代の地域福祉・外国人相談対応への配慮事項

新居 みどり氏 (特非)国際活動市民中心(CINGA) コーディネーター
矢富 明德氏 (公財)佐賀県国際交流協会 企画交流課長
山野上 隆史氏 (公財)とよなか国際交流協会 常務理事兼事務局長
田村 太郎氏 (一財)ダイバーシティ研究所 代表理事

第3回 2023年5月19日 (金)
《総括》今後に向けて備えるべきこと

川北 秀人氏 IIOE [人と組織と地球のための国際研究所]

各回 進行 川北 秀人氏 IIOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表者 兼 ソシオ・マネジメント編集発行人

※ かめのり財団ホームページでは、セミナー各回の抄録を掲載中です。ぜひご覧ください。

2023年12月「多文化共生の転換期」

第1回 2023年12月1日 (金)
総論：転換期にある多文化共生のこれまでとこれから

田村 太郎氏 (一財)ダイバーシティ研究所 代表理事
鈴木 江理子氏 国士館大学 文学部 教授

第2回 2023年12月6日 (水)
働き続けやすさ・暮らし続けやすさを確立するために、求められる取り組み・施策

宍戸 健一氏 (一社)JP-MIRAI 理事/国際協力機構(JICA) 理事長特別補佐
増田 麻美子氏 文化庁 日本語教育調査官

第3回 2023年12月11日 (月)
働き続けやすさ・暮らし続けやすさを確立するために、求められる取り組み・施策

新居 みどり氏 (特非)国際活動市民中心(CINGA) コーディネーター
土井 佳彦氏 (特非)多文化共生リソースセンター東海 代表理事

第4回 2023年12月18日 (月)
課題対応から基盤整備へ—民間助成機関はどう対応するか

阿部 陽一郎氏 (社福)中央共同募金会 常務理事・事務局長
和田 泰一氏 (一財)日本民間公益活動連携機構(JANPIA) 事業部長

所属・肩書は登壇当時のものです。

海外日本語教育 サポート事業

2023年度実施概要

2012年度以来、(独)国際交流基金との協働で、「にほんご人フォーラム」「ベトナム中学生日本語キャンプ」「ベトナム高校生にほんご人100人訪日事業」など、東南アジア各国における日本語教育を支援する事業を実施してきました。2023年度は、「にほんご人フォーラム」の10年間の活動をまとめた報告書の発行、ベトナムでの日本語教科書制作への支援、そして東南アジア5カ国の各国での「にほんご人フォーラム関連事業」を行いました。

報告書「にほんご人フォーラム10年のあゆみ」

(独)国際交流基金との共催事業「にほんご人フォーラム」の実践と成果をまとめた報告書『にほんご人フォーラム10年のあゆみ』を、2023年1月に発行しました。報告書では、2012年の準備会議よりスタートした当事業について、2013年～2019年に7回実施した集合フォーラムでの実践や、立ち上げから関わる日本語教育専門家による総括、参加教師と生徒へのインタビュー、東南アジア5カ国での関連事業の実施状況の他、2023年2月に行った「10年のまとめ報告会」の採録を読むことができます。

別紙の資料集には、にほんご人フォーラム年表や、参加者を対象に実施したアンケート結果、にほんご人フォーラム関連の主な論文等のリストを収録。かめり財団ウェブサイトでは現在、報告書のPDF版を配布中です。



ベトナム日本語教育への支援

ベトナム初等日本語教育教科書等作成・整備事業

2021年度から3カ年事業として支援している「ベトナム初等日本語教育教科書等作成・整備事業」では、引き続き、ベトナムの初等教育において日本語教育の新カリキュラムに沿った教科書等の作成事業を、(独)国際交流基金ベトナム日本文化交流センターとともに支援し、2023年度は4,875,994円を助成しました。

国際シンポジウム「世界をつなぐ日本語」

ベトナム日本語・日本語教育学会がハノイ工科大学で2023年8月5日に行った国際シンポジウム「世界をつなぐ日本語」に、245,756,000VND (10,480 USD) を助成しました。このシンポジウムは、コロナ禍により世界の日本語学習者が減少傾向にある状況に対し、ベトナムでの日本語学習熱を取り戻し、国際社会の相互理解を促進する日本語の役割を維持することを目的に企画されました。

冒頭の基調講演では、世界の日本語教育の現状と今後のあるべき姿についてカリフォルニア大学サンディエゴ校の當作靖彦教授が講演を行いました。続くパネルディスカッションでは、ベトナムでの日本語教育発展への取り組みについて意見交換が行われました。シンポジウムの後半には、多数の研究者が研究成果を発表。この日はオンラインと会場合わせて約100人が参加し、発表者と参加者がともに成長する機会となりました。



第5回日本研究・日本語教育国際シンポジウム「世界をつなぐ日本語」

海外日本語教育サポート事業

にほんご人フォーラム関連事業

「にほんご人フォーラム」での学びや実践を各国で展開する関連事業を実施しています。2023年度は、前年度に引き続き、過去に「にほんご人フォーラム」に参加した東南アジアの5カ国での関連事業への支援を行いました。

中等教育日本語教師リーダー研修2023 (ベトナム)

JFベトナム日本文化交流センターとの共催で、2023年8月7日～9日に「中等教育日本語教師リーダー研修2023」を古都フエにて実施しました。参加したのはベトナム各地の日本語教師22名(北部9名、中部6名、南部7名)で、「中等日本語教育のこれから～経験から学ぶ～」をテーマに、これまでの実践を共有し学び合い、今後の授業へ取り入れたいことや、この研修での学びをどう地域の教師へ伝えるかを考える機会となりました。



にほんご人フォーラム2023 in インドネシア

JFジャカルタ日本文化センターとの共催で「にほんご人フォーラム2023 in インドネシア」を、2023年11月10日～12日に西ジャワ州バンドン市で「防災」をテーマに実施し、西ジャワ地域から選ばれた生徒24名と教師12名、ファシリテーター教師6名が参加しました。参加者は防災の定義を自ら考え共有し、防災グッズづくりやインタビュー活動を経て、周りの人のためにできることは何かを伝えるスキット(寸劇)を発表しました。



にほんご人フォーラム2024 in フィリピン

JFマニラ日本文化センターとの共催で「にほんご人フォーラム2024 in フィリピン」を、エコツーリズムで有名なボホール島で2024年1月25日～27日に開催し、生徒12名と教師12名が参加しました。テーマは「フィ

リピンをまもろう!」で、ボホール島の様々な施設や観光地を訪れ、日本語を使った活動に参加し、エコ活動やエコツーリズムに携わる様々な立場の人から話を聞きました。最後はグループごとに、話をしてくれた地元の有識者の「ところ」を、ドラマや動画などで表現し発表しました。



にほんご人フォーラム 2023 (マレーシア) ～中等教育日本語教師キャンプ～

JFクアラルンプール日本文化センターと共催し、2泊3日の「にほんご人フォーラム 2023 (マレーシア)」を2023年8月に南部ジョホールバル、北部ペナン、9月に中央部クアラルンプールで実施し、85名の教師が参加しました。聴解力や読解力を伸ばす教え方を考える日本語教授法のセッションや、会話のロールプレイと朗読による学習者体験のセッションを経て、各自が実践を紹介するアイデア交換会では、授業のアイデアや工夫を共有しました。



中等教育日本語教育リーダー教師育成プロジェクト(タイ) ～コンピテンシーの育成を目指した授業の実践と共有～

JFバンコク日本文化センターとの共催で、「中等教育日本語教育リーダー教師育成プロジェクト」の2年目を実施しました。タイ各地の14名の教師たちは、前年度の学びを授業で実践し、毎月オンラインで情報交換を行うとともに、授業見学およびフィードバックの時間をもちました。10月には1学期の活動を詳細に検討し共有する3日間の「ふりかえり会」を、3月には1年間の実践を振り返る総括会を行いました。



基盤支援事業 2023年度実施概要

日本とアジア・オセアニア諸国との国際交流、国際相互理解、そして人材育成を支える基盤支援として、2007年より「かめのり賞」の顕彰と「講演会・シンポジウム」活動を、2009年からは「かめのりフォーラム」を行っています。これは、財団の理念の実現に向けて協働できるパートナーの発掘や支援活動でもあります。2023年度は、青少年交流プログラムの参加者が振り返りを行う「かめのりセッション」を4年振りに実施しました。

基盤支援事業

第17回かめのり賞 受賞団体のご紹介

かめのり賞は、日本とアジア・オセアニアの若い世代を中心とした相互理解・相互交流の促進や人材育成に草の根で貢献し、今後の活動が期待される個人または団体を顕彰するものです。2023年度は外部有識者を含むかめのり賞選考委員会により、4団体の表彰が決定しました。



かめのりフォーラム 2024

新年に行う恒例のかめのりフォーラム。オンラインで行ったコロナ禍の3年を経て、「かめのりフォーラム2024」を、2024年1月12日にアルカディア市ヶ谷にて開催しました。2023年度のプログラムに参加した高校生や大学生、大学院奨学生をはじめ、財団の事業にご協力下さった方々など、109名が参加しました。

冒頭に、(独)国際交流基金の鈴木雅之理事より来賓祝辞を賜り、にほんご人フォーラムの10年や、共催した「日ASEANユース・フォーラム Take Actions for Social Change (TASC) 2023」の成果を述べられました。

フォーラム前半では、かめのり賞表彰式が行われました。評議員でかめのり賞選考委員の宮嶋泰子の司会により進行し、4組の受賞団体の活動紹介と表彰がありました。続いて、「TASC2023」、「かめのり未来をつくるリーダーシッププロジェクト」、「かめのりスクール2023」、「かめのりカレッジ2023」の参加者を代表して各1名の生徒・学生が、プログラムでの体験と学びについて発表しました。

後半にはゲストスピーカーとして産業能率大学経営

左上：かめのり賞表彰式 右上：プログラム体験発表
下：高原教授とゼミ生の対話



学部の高原純一教授が登場し、「新しい教育～ことばの違う2つの世代をつなぐ～」のテーマのもと、現役ゼミ生2名も加わり、ゼミでの実践や考えを巡る3人の対話が壇上で展開されました。

続く懇親会では、(一社)FCC GROOVEの横田秀策代表理事の祝辞の後、この日出席した生徒・学生全員が壇上で参加プログラムや自身の専門や進路を紹介すると、世代や地域を越えた交流の輪が広がっていきました。

かめのりセッション 2024

かめのりフォーラムに続き、2024年1月13日には国立オリンピック記念青少年総合センターにて、こちらも2020年以来となった「かめのりセッション2024」を実施しました。ここでは、TASC2023に参加した大学生5名がプログラムの振り返りを行い、大学院奨学生7人が次年度の夏の研修交流会に向けた話し合いや、奨学生OB2名との研究生生活について相談の時間が持たれました。

最後に、かめのり財団の創設者で評議員の康本健守より、長年海外で事業を展開してきた経験談とともに、

「何事にもプラス思考で積極的にチャレンジしてほしい」とのメッセージが贈られました。



かめのり大賞 草の根部門

特定非営利活動法人 アジア人文文化交流促進協会



外国人が日本社会の生活になじみやすくするよう、地域住民との交流や相互理解を促進し、外国人向け支援・相談活動を行っている。「おとなりさん・ファミリーフレンド・プログラム (OFF)」では、地域住民が外国人住民と直接つながり、日常生活の課題解決に手助けを行う。



かめのり大賞 人材育成部門

認定特定非営利活動法人
フィリピン日系人リーガルサポートセンター



太平洋戦争の犠牲者であるフィリピン残留日本人2世への、父親の身元調査・日本国籍回復等の法的支援を目的に発足。並行して、簡易太陽光発電装置のワークショップ実施など、日系人会の地盤を固めつつ人材育成に取り組む。



かめのりさきがけ賞

特定非営利活動法人 YouMe Nepal



多くの若者が危険な出稼ぎに行かざるを得ないネパールでの、課題の根源は不十分な教育制度だと考え、代表が自費で学校を設立。ネパール人によるネパールのための開発が最も持続可能で効果的であるという信念の下活動中。



かめのり特別賞

認定特定非営利活動法人
シャプラニール＝市民による海外協力の会



バングラデシュ・ネパールでの児童労働削減、教育支援、防災・減災、フェアトレード、国内の多文化共生事業に取り組む。バングラデシュでは、学校に行けず過酷な労働環境に置かれた、家事使用人として働く少女たちのための支援センターを運営中。



基盤支援事業

講演会

アジアの国々との相互理解の促進とグローバル人材育成を目的に、當作靖彦教授（カリフォルニア大学サンディエゴ校）を講師とした講演会の機会を提供しています。2023年度は国内およびフィリピン、タイで講演やワークショップを実施しました。



福山 (日本)
福山市立福山中・高等学校でのグローバル講演会

日程：2023年6月29日（木）
会場：福山市立福山中・高等学校
参加人数：609名（中高の生徒および教員）

福山市立福山中・高等学校の全校生徒および教員に向けて當作教授は「21世紀のグローバル社会を生きる地球市民になろう」と題した講演を行いました。AIや機械化が進む世界において、人間が幸福に生きる新たな社会を創造するには、ボーダーを越え、他者と共感し、協働し、多様性を認め合う社会の実現が重要であると、未来へのビジョンを語りました。



マニラ (フィリピン)
「アジア言語講演会」での講演・ワークショップ

日程：2023年6月23日（金）、24日（土）
会場：フィリピン大学ディリマン校 パルマホール 207
参加人数：約60名（日本語教師、JFマニラスタッフ、外国語教師、外国語学習者）

フィリピン大学ディリマン校との共催で、国際交流基金マニラ日本文化センターの協力のもと、フィリピンにおける日本語教育に関する講義・ワークショップ「アジア言語講演会」を実施し、當作教授による講演「21世紀の地球市民教育：外国語教育の課題、展望、戦略」およびワークショップ「言語教室での学習の最大化：インストラクショナルデザインの効果的な戦略」を行いました。



バンコク (タイ)
中等日本語教育セミナー「21世紀を生き抜くカーこれからの中等教育で育成すべき資質・能力について」および第1回タイ国日本語教育国際シンポジウム「これからの社会に生きる力」での講演

日程：2024年3月8日（金）、9日（土）
会場：レンプラントホテル、カセサート大学人文学部
参加人数：約60名（中等教育機関の日本語教師）、約200名（教師、研究者、学者、大学生、政府機関職員、民間の団体職員）

国際交流基金バンコク日本文化センター（JFBKK）との共催で教育セミナーを、FBKKとカセサート大学とタイ国日本語日本文化教師協会との共催で国際シンポジウムを実施し、それぞれ基調講演「ジェネラティブAI時代の言語教育—その可能性・活用及び課題—」「21世紀を生き抜くカーこれからの中等教育で育成すべき資質・能力について」を當作教授が行いました。



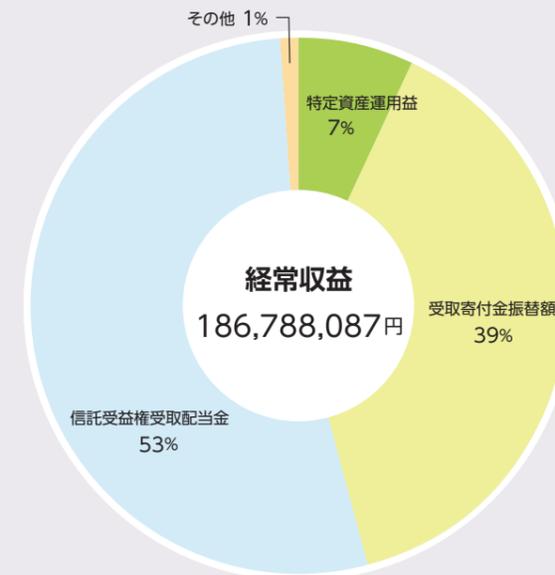
マニラ (フィリピン)
日本語教育特別講演会「日本語教育の未来を切り拓く」での講演 および「第38回フィリピン日本語教師フォーラム」でのワークショップ

日程：2024年3月12日（火）、13日（水）
会場：ニューワールドマカティホテル、フィリピン大学言語学科
参加人数：約70名（日比の産官学民の日本語教育ステークホルダー）、約60名（現職教師、教師志望者）

国際交流基金マニラ日本文化センター（JFマニラ）とフィリピン日本商工会議所の主催で、當作教授による講演会「日本語教育の未来を切り拓く」を行い、またJFマニラとフィリピン大学言語学科主催の「フィリピン日本語教師フォーラム」では、當作教授が日本語教師向けの講義とワークショップを行いました。



2023年度 財務のあらまし



評議員・役員一覧

評議員

- | | |
|------------------------|--------------------------------|
| 康本 健守 共立ビル(株) 取締役 | 森園 浩一 国際教養大学 名誉教授 |
| 宮嶋 泰子 (一社)カルティベータ 代表理事 | 河野 宏子 (株)コーチ・エイ シニア エグゼクティブコーチ |
| 上原 史子 岩手県立大学総合政策学部 准教授 | 力武 義之 四谷川添産婦人科 院長 |

理事

- | | |
|--------------------------------------------|-----------------------------------|
| 理事長
木村 晋介 弁護士 | 理事
西川 雅雄 前(公財)かめのり財団 常務理事 |
| 常務理事
西田 浩子 前(公財)かめのり財団 事務局長 | 理事
野村 彰男 (特非)青少年育成支援フォーラム 理事長 |
| 業務担当理事
朝倉 孝雄 富士フィルム 海老名ミネルヴァ AFC ヘッドコーチ | 理事
原田 英治 英治出版(株) 共同創業者 |
| 理事
袖崎 義俊 元三菱商事(株) 参事 | 理事
藤井 純一 (公財)渥美国際交流財団 監事 |
| 理事
中野 嘉子 東京理科大学 教授 | 理事
王 敏 法政大学 名誉教授、桜美林大学大学院 特任教授 |
| 理事
西川 圭輔 (株)クニエ シニアマネージャー | |

監事

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 勝守 令三 (株)ブヨウ 総務部長 | 山本 和夫 公認会計士・税理士 |
|-------------------|-----------------|

お知らせ

リニューアルから1年が経過したかめのり財団ウェブサイトには、新しい機能を追加しました。ナビゲーションメニューにサブメニューが加わり、プログラムの対象者（中高生、大学生、一般）ごとにニュースが読める仕組みが追加されました。また、英語での記事投稿ができるようになりました。多岐にわたるかめのり財団の活動を、より見やすい形でご覧いただけます。



2023年度に創刊し、以後年1回発行予定の『かめのり財団アニュアルレポート』（本誌）と共に、ウェブサイトでは、実施プログラムの告知や活動の報告を続けています。記事投稿時には、SNS（Facebook、Instagram、X）を通じてお知らせしていますので、かめのり財団のSNSのフォローやチェックもぜひ合わせてお願いいたします。

今後の予定

- 2024年8月
にほんご人フォーラム2024
かめのりカレッジ2024
- 2024年9月
大学院留学アジア奨学生 夏の研修交流会
多文化共生塾（関西）
- 2024年10月
當作靖彦教授 講演会（クアラルンプール）
多文化共生塾（関東）
- 2024年12月
かめのり未来をつくるリーダーシップ
プロジェクト
- 2025年1月
かめのりフォーラム2025
かめのりセッション2025
多文化共生ネットワーク会議

※実施時期が変更になる場合がございます。ご了承ください。



公益財団法人 かめのり財団

〒102-0083
東京都千代田区麹町5-5
ベルヴュー麹町1階
TEL：03-3234-1694
FAX：03-3234-1603
E-mail：info@kamenori.jp
URL：https://www.kamenori.jp/

かめのり財団 Web & SNS



発行人／西田 浩子
編集／谷本 知子
デザイン／イワブチサトシ (BUTI design)
印刷／株式会社佐伯コミュニケーションズ